

文部省選定 1996年教育映像祭最優秀作品賞・文部大臣賞  
第6回 TEPIA ハイテク・ビデオ・コンクール奨励賞

白血病や重症再生不良性貧血などの治療のために健康な人の骨髄液を必要とする人は、日本で毎年2000人いるといわれている。骨髄液の提供者、ドナーの数はまだまだ少なく、将来ドナーとなる可能性を持つ若い人や一般の人たちにも広く骨髄移植への理解と支援を求めるもので、ある患者の闘病過程を追いながら、骨髄移植がどのように行われたかを記録した。



北海道から上京し、美容師として働く青年がいる。彼は、ある日突然、慢性骨髄性白血病の診断を受けた。彼のドナー探しから、このドキュメンタリーは始まる。

骨髄移植を受けなければ、近い将来確実に死を迎えると宣告され、もしかしたら明日にも急性転化して死に至るかもしれない大きな不安と闘う日々が続く。多くの友人たちがドナー登録をしてくれたが、適合する人は見つからなかった。ドナーを待つこと2年、やっと適合者が現れた。しかし一般には、骨髄移植の成功率は約50%。その現実にも悩みながらも、彼は移植に生きる希望を懸けた。

そこには、「究極のボランティア」、「いのちのボランティア」ともいわれるドナーの善意に心から感謝し、移植の成功を願う家族や友人たちの姿もあった。

記録  
ビデオ  
カラー／34分

- 企画  
中外製薬株式会社
- 監修  
厚生省
- 協力  
東京都立駒込病院  
東京女子医科大学  
日本赤十字社中央血液センター
- 後援  
(財) 骨髄移植推進財団

#### スタッフ

- 製作  
村山英世
- 脚本・演出  
原村政樹
- 撮影  
中井正義  
山屋恵司
- VE  
小原静二
- 線画  
河原三郎
- タイトル  
シネアート
- 編集  
戸嶋志津子
- 録音  
アオイスタジオ
- 選曲  
徳永由紀子
- 解説  
原田芳雄